

東京プロジェクトスタディ2 第5回記録ノート  
12月22日(土)15:00~18:00@九段下~東京国際フォーラム

※フィールドワークのルートと彫刻の位置

<https://drive.google.com/open?id=1bRQYd6K8chD4qEqxtPh7oGXy4v10Aw-h&usp=sharing>

## 【Ⅰ：はじめに『東京彫刻計画』を重ねて東京の彫刻を巡る（ナビゲーター）】

2月の全体報告会に向けて、東京にあるパブリックアート（彫刻）を調べながら、2027年の東京を考えていきたいと思う。そこで今回のフィールドワークでは、「東京藝術大学彫刻科の前進となる東京美術学校が開校した1887年から2027年までの10年ごとに『東京彫刻計画』というプロジェクトが行われている」というフィクションを重ねて、東京にある彫刻を巡っていきたいと思う。

『東京彫刻計画』を重ねてみると、例えば1987年に設置された上野の西郷像は、第2回目の東京彫刻計画に設置されたものとして見ることが出来る。また、前回の小田原のどかさんのレクチャーにあった、2次元のアニメなどを彫刻として3次元化するブームの時代など、10年ごとに彫刻を見ていくことで、1887年から現代までの「彫刻」という概念の拡張が見えてくるのではないか。さらに、お台場のガンダムなど、東京特有の状況も見えてこないだろうか。

今日のフィールドワークでは、皇居周辺の彫刻を10年ごとの設置年に区切って、見て行きたいと思う。

-----

## 【Ⅱ：フィールドワークの記録】

今回のフィールドワークで訪れた彫刻と、彫刻を訪れ、ナビゲーターや参加者が感じたことや疑問のまとめ。ルートと彫刻の位置は、(<https://drive.google.com/open?id=1bRQYd6K8chD4qEqxtPh7oGXy4v10Aw-h&usp=sharing>)を参照。

### 1) 1907/子爵品川弥二郎像/木山白雲

- ・単純に高い、西郷像を見上げる時と同じ気持ちになる。
- ・なぜ、高いのか？
- ・小田原さんの話で、戦前、軍に関係のある像の設置されていた「平和の群像」の台座と同じ理由で、台座が高いのかもしれない。
- ・メンテナンスはされているのか？
- ・台座の規模が大きい。江戸時代が終わった直後に作られた台座と考えると当時の技術力はすごい。
- ・像の目線は、靖国神社の方向を見ている？

### 2) 設置年不明/桃花流水/熊谷喜美子

- ・女性が作成している。
- ・インド大使館前に設置されているからか、インド神話に出て来そうにも見える。
- ・私有地では無い場所に設置するとき、誰が設置位置を決めているのか？

### 3) 1962/少女像「泉」/熊谷喜美子

- ・作品名に「少女」とあるが、ふくよかな女性像で艶めかしい。
- ・像は何を見ているのか？
- ・頭の上になにかある。
- ・当たり前のように設置されている。
- ・手前にあった「桃花流水」像との関係はあるのか？
- ・寄贈されている？ 誰から誰に？
- ・管理は誰がしているのか？
- ・1964年の東京オリンピックの2年前に設置されている。
- ・素材は青銅のようにみえる。

#### 4) 1963/髪結い/峯田義郎

- ・高級マンションの前に設置されている。どういった意図で置いているのか？
- ・意外に軽そうで、台座から外れそう。
- ・作者は彫刻界では有名な人のよう。
- ・千鳥ヶ淵緑道の舗装が変化している。舗装や〇〇ロードなど道の名前が変わると設置される彫刻も変化するのか。

#### 5) 1997/移住/セバスチャン・エンリケ・カルバハル

- ・対墨日本人移住百周年記念（1897-1997）として、メキシコ国民より日本国民へ贈呈されたもの。
- ・「東京彫刻計画」では、第1回目の作品にあたる。
- ・立川（ファーレ立川）にいるような雰囲気がある。
- ・彫刻の造形を考えると、固定するためにある三角部分が気になる。
- ・三角部分裏にサインがある。重量1トンと記載されている。
- ・設置3年後に越後妻有アートトリエンナーレが開始され、設置2年前に東京都現代美術館が開館している。
- ・作品の傾向に時代背景を感じる。
- ・「入ってはいけません」などの注意書きがない。
- ・石の台座はないが、高い位置に設置したいため盛り土されている。
- ・彫刻との交流を図るには、向かい合わせで立ち、隙間に顔が入るように撮るのがいいのかもしれない。
- ・どのような意図で置かれているのだろうか。
- ・この場所は、消防訓練跡地と書いてある。建物が無くなった後、建てることが出来なくなり、その代わりに設置されているのか？
- ・日本に移住した人が建てたのか？

#### 6) 1955/自由の群像/

菊池一雄（制作）設計者：谷口吉郎（設計）伊藤忠雄（鋳造）

- ・平和の群像と同じ電通が設置。
- ・制作者と鋳造者が同じ人物。
- ・自由の群像は、新聞人顕彰を記念して造られている。
- ・像周辺的设计が谷口吉郎さんなのは。

#### 7) 1950/広告記念像(平和の群像) /

## 菊池一雄（制作）伊藤忠雄（鑄造）松井建設株式会社（施工）

- ・台座自体は、過去の軍人像（馬に乗っているもの）と同じ高さか？
- ・三人いると群像になる。
- ・形式が自由の群像と一緒。
- ・広告功労者顕彰を記念して電通が設置している。
- ・後ろからみると真ん中の人を慰めているようにみえる。
- ・入口の子供の像もセットで構成されている。
- ・像はどこを見ているのか。
- ・高いことが大事なのでは。見上げた時に像以外に空しか見えないなど。
- ・16:30ごろライトアップ。ライトアップされることで、像に艶が出てきた。
- ・現在は像の後ろに最高裁判所。
- ・以前の軍人の像がこの位置にあったらと想像すると、確かに影響力がある位置である。
- ・平和の群像も、今の時代には合わないのでは。もう一回この銅像を変えないか電通に打診してみる？
- ・現代だと、ガンダムやゴジラ？ 観光客が来るかもしれない。一方で、観光客には来てほしくないかもしれない。
- ・入口の子供像が平和の象徴とのことだが、イヤイヤ座っているように見える。
- ・皇居ランナーのトレーニング場所になっている。

## 8) 1900/楠木正成像

高村光雲（頭部担当）山田鬼斎・石川光明（像の体部）

後藤貞行（馬）岡崎雪聲・杉浦滝次郎（鑄造）

- ・住友家が、東京美術学校彫刻科が開校した翌年に制作依頼し、10年を費やし完成している。
- ・楠木正成は鎌倉幕府を倒した後醍醐天皇のために、朝廷を復活させた人物。皇居前の位置に設置されている意味が分かる。
- ・上野公園の彫刻には、全て作品と作者の説明があったが、千代田区はない。
- ・16:40ライトアップ。
- ・台座の石に直接像が乗っていると違和感があるが、台座部分も鑄造で作成されていて一体感がある。
- ・彫刻をやっている人の意見を聞きたい。
- ・美術は圧倒的に残る。建築より残る。
- ・設置された時代的に、日露戦争と関係しているのでは？ 鼓舞する目的などがあったのでは？
- ・10年おきに、間引いて作品をみていくと時代ごとの違いが見えてくる。

## 9) 2018/渋沢栄一像/作者不明

## 10) 2014/われは南瓜/草間彌生

## 11) 2018/無題/加藤泉

## 12) 1996/へミスフィア・サークル/リチャード・ロング

13) 1991/意心帰 “ISHINKI” /安田侃

14) 1987/バルセロナ・バラッド/アンソニー・カロ

15) 1997/太田道灌/朝倉文夫

- ・旧都庁に設置されていた像。跡地には現在東京国際フォーラムがあり、その内部に設置されている。
- ・楠木正成像の設置から60年後の作品になるが、作風はあまり変化が無く、下から見上げて見る構図も変わらない。
- ・弓の弦の表現も細かくされている。
- ・全国各地に太田道灌像がある。二宮金次郎の作者が作成した太田道灌像もある。

-----

### 【Ⅲ：次回】

- ・1月19日(土)15:00～18:00@ROOM302  
その前にフィールドワークを実施予定。

〈参考URL〉

かけらを集める (仮)。

<http://d.hatena.ne.jp/pigmonm/searchdiary?word=%BE%AF%BD%F7%C1%FC%A1%D6%C0%F4%A1%D7>

(文＝西島慧子)